

8 授業の結果と考察

すでに述べているように、「社会的事象に対する関心・態度」は、認知的な側面と密接にかかわりながら、低いレベルの「関心・態度」から、より高いレベルの「関心・態度」へと、階層的に、しかも連続して高まっていくと考える。

従って、「関心・態度」の評価にあたっては、学習過程における子ども一人一人の「関心・態度」をどう評定するかということではなく、子ども一人一人の「関心・態度」が、どのような階層にあり、どう連続し、どう高まっているかということに視点がおかれなければならない。

ここでは、はじめに、「社会的事象に対する関心・態度」が、実際の授業ではどのように評価され、認知的な側面とどうかかわっていたかについて述べ、次に、実践された評価方法について、その意図と評価結果を考察し、最後に、実際の授業に見られた「関心・態度」の評価に関する問題について述べる。

(1) 目標分析と「関心・態度」の評価

「検証授業Ⅱ、Ⅲ」で実践された事例をもとに、評価結果から、「関心・態度」の評価のあり方について考察するが、ここにおける「社会的事象に対する関心・態度」の達成目標は、表2 (P 15) によっている。なお、「検証授業Ⅲ」に直接かかわる下位目標とその評価方法については、表5 (P 22) に示すとおりである。

単位時間に4回の評価場面は明らかに多すぎると思われるが、この授業では、特に、「関心・態度」の形成過程に評価の視点をおいているので、下位目標のそれぞれについて評価を試みたのである。以下に示す下位目標の評価結果は、究極的には、子ども一人一人の「関心・態度」をどうとらえ、それをどう指導に生かすかという観点から処理すべきであるが、ここでは、「関心・態度」の全体的な傾向を把握すべく、以下のように表現した。なお、グラフ()内の数字は、児童数である。

① 「検証授業Ⅲ」における下位目標1, 2, 3, 4の評価結果と考察

ア 「水が使われていることに注意が向いているか」を評価する

○ 下位目標1の評価結果

評価目標	評価の場面	評価法	評価用具の内容または評価基準	評価の意図
下位目標1 鉄の生産には水が使われていることに注意が向いているか。	鉄の生産工程で水が使われているVTRを見たあとの場面	自己評価法 (多肢選択式の質問紙) ・記入後、挙手させて確かめる	VTRをみて、きょうみを持ったことは、何ですか。 ア きかいのこと イ コンピューターのこと ウ 水のこと エ その他()	水に注意が向いていない児童を発見し、クラス全体の注意を工業用水へと向けさせるため

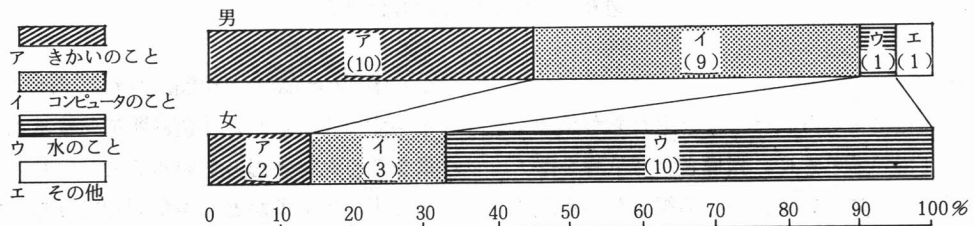


図5 下位目標1の評価結果

○ 考察

VTR視聴後、「水」に関心を示したのは、男子が1名、女子が10名で、女子についてはそ

の67%が「水」に注目している。VTRは「製鉄所では大量の水が使われている」という観点から市販のテープを部分利用したものである。